

表 15. チェックシートを使用しての感想(その4)	
記入方法にもっと工夫が必要	はい、いいえで決められない。答えられない微妙なことがある。
	見守りチェックシート(基本編)は書きやすく、うつ状態の早期発見は毎日生活したり、よくその人のことを知っていなければわかりにくいと思います。高齢でそうになっているのか、認知症でそうになっているのかの判断は少しわかりにくいと思います。医療従事者との連携が必要な時も?
	対象者をよく知らないと「分からない」のチェックが多くなる。
	一人暮らしの方について身の回りの世話をする人がヘルパーさん以外に身近(近所)にいるのかどうか、その人物は身内かどうか、その状態によって暮らしぶりはかなり違ってくると思います。
	「必要なサービス」の「必要」という意味がどの基準をもって必要とするのかその線引きが判断しにくい。うつ「楽しみ事がやれているか」「役に立つ人間と思えるか」は、本人に聞いても本当にそう思っているのかははっきりしないように思える。
	一人暮らしの場合は括弧内の内容(家族との会話等)が合わない。一人暮らしの場合、別居の家族との接触の目安になるものがあればいいと思う。
苦情・意見	チェックシートを書く私の立場は何なのでしょう。家族がいればちゃんとお世話されていると思います。
	対象者を思い浮かべながらチェックをしたが、チェックシートを見ただけでは問題点は見えてこない。
	わかりにくい質問がある。
その他の意見	ほとんど家内にいるようなので、近所の人との交流があればよいと思う。
	チェックがつかないところも沢山あるが、夜間の対応が難しいので地域のマンパワーが必要になってくると考える。
	一人暮らしの方を把握していても、このチェックシートの項目をチェックすることは大変難しいと思います。
	少し離れているので、状況判断については難しい。
	見守りする人を誰にしたらいいか分からないので祖母にした。
	想像で、そうであろうと思ってチェックしたので、間違っているかもしれない。
	以前、親しくしていた人にバッグの中に入れていたお金を盗まれた。
	見守る人の生活の環境を理解し、ポイント(大事な部分)のチェックでいいのかなと思うが、不足もまた気になることではある。
	今回、急に言われてイメージだけで利用しましたので、具体的に思いつかない点、結びつかない点がありました。
	一人気になる方(近所の方ともめている人)がいるのですが、物事を自分は正しいと言って、回りの方々に迷惑を掛けています。
自分のことを書いてみたのですが何も当てはまりません。私のご近所さんに当てはまる方がいらっしやらないので書きづらいです。	

## 〈まとめ〉

見守りを必要とする対象者の年齢や世帯状況では、80歳代以上、一人暮らしが多いものの、40歳代、50歳代の若い年代や、同居世帯でも見守りの必要事例はあることを注意する。また、身体不自由がある割合は3割弱であり、その内容は移動や日常生活への制限等が主なものであったが、閉じこもりや、認知症（疑いを含む）などの占める割合も高い。

見守り対象者の緊急連絡先が判明している割合は4割を超えているが、逆に緊急連絡先が不明であったり無回答事例を合わせると半数を占めており、また、緊急連絡先があっても従兄の子等の遠縁者であったり、友人などの回答もあることから、このような状況の中で行う見守り活動の困難さや地域特性にあった創意・工夫の必要性が窺える。

基本編の見守りチェックシートでは、「会話が通じにくいと感じる」や、「無気力または無表情、意欲・生気が感じられない」などの回答割合が高く、これらの観察項目に気づくためには少しの留意事項や観察方法を心がけることで可能となる。すなわち、専門的な学習や十分な事前準備が必ずしも必要ではなく、「地域の見守りのために少し自分の時間を提供してもよい」と考えている住民に気軽に依頼ができる範疇が大半ではないかと考える。地域の見守りネットワークの構築と活動の裾野を広げるには、如何にして見守り従事者が持つ負担感を減らせるかにかかっている。そのためには、行政や専門職の役割まで過重に負担させないことや、住民の限界を見極めることが大切であるといえる。

今回の見守り事例で、気になっている内容の中には、少ないながらも虐待が疑われる事例が含まれており、早急に適切な対応策を検討する必要性が窺える。それと同時に、身近な地域の見守り活動が、虐待事例の早期発見・早期介入のための重要な情報経路として重要な意味を持つと考える。しかしながら、見守りネットワークが有効に機能するには、調査結果にもあったように当事者の意識の程度や当事者からの見守りの拒否などの課題もあり、当事者の意向・意志を最大限に尊重しつつ、必要時には適切に介入できるための見守りシステムの構築と共に、日常的な生活の中から信頼関係を形成していくことが重要である。また、地域での見守りの限界を適切に見極めながら、地域ネットワークの形成をしていく必要がある。そのためには志摩市等の先駆的な事例に習い、ネットワークを重層的に組み合わせながら、参加する住民自身に過重な負担を強いることなく、かつ洩れのないシステム構築を目指していくことが望まれる。

## 第4章 まとめ

### 1. 組織育成研修プログラムの実施結果と課題

堺市西区地域包括支援センターでは、研修会を通してネットワークを構築することを目的に昨年度から研修会を開催してきた。組織育成研修プログラムでは、研修会を通してネットワークを構築することを目的にしており、今年度の具体的な活動目標は、①支援者のスキルアップを図る、②ネットワーク構築の方法論を学ぶ、③ネットワーク構築に向けての模擬実践することである。これらの目標はいずれもほぼ達成できたと考える。特に見守り組織育成に向けた取り組みでは、研修会は回を重ねるごとに参加者の層も厚くなっており、参加者の意見を総括すると今年度は初年度よりさらに考え方や取り組みの質的な面で充実したことが窺える。その要因の一つは、研修会後半のグループワークにある。毎回の研修会では講演のみの参加で終わらせるのではなく、研修会の後半はグループワークを設定しており、小グループでの意見交換は自由な雰囲気での交換ができるように配慮している。このことが、参加者の主体性の形成につながったと評価している。このことは講義や講演のみに終わらないためにも重要なことであり、そのスタイルが定着してきたと思える。支援者のスキルアップについては、個人の専門性や関心の程度の差もあるが、その人の可能なことを活かしたネットワークの構築が重要であり、ほぼこの状況で達成できつつあると考える。毎回の意見交換で、それぞれの研修会の対象者は「高齢者を支援する住民」であり、介護保険事業者や行政機関専門職も一同に参加しての検討会であり、警察や消防署などの職員の意識も高まっている。さらにこれらの活動での実践的・有機的に連携できることが大切であり、さらに認知症に対する理解を深めるには今後も継続していく必要がある。企画委員会には多彩な職種が参加しており、今後も必要、特に医療機関の医師の参加をもっと導入できることが課題である。

### 2. 見守りチェックシートの試行状況と課題

見守りチェックシートを使用した69人、延べ85事例について検討した結果、7割強の人が一人暮らし世帯を対象にしていたが、一人暮らし世帯の中には認知症の事例等を含んでおり、見守りチェックシートの問題点は概ね抽出できたのではないかと考える。また、今回の試行の最大の成果は、見守りのための観察の要点やどのような項目が望ましいのかを選択するプロセスに参加していただいたことであり、この意味は見守りが決して押しつけや一方向の活動ではないことをこの体験を通して理解していただけたのではないかと考える。もう一つの成果は見守りは漠然と行うのではなく一定の様式（チェックシート）を用いることで観察の信頼性が高まることなど、チェックシートの意味を参加者に理解してもらえたことである。

また、チェックシートの項目は重要項目を必要最小限に限って用いることが重要であり、このことは、見守りに伴う負担感を減らすことにつながる可能性がある。そこで今回の調査を活かしたチェック項目の選択に関していくつかの案を提案したい。

基礎編でチェックされる可能性が高い項目の上位3位は、「会話が通じにくい」、「無気力、無表情」、「通院していない」であり、その状況が観察しにくい項目の上位3位は「火の不始末が増えた」、「夜でも電気がつかない」、「近所とのトラブル」である。また、今後の対応では①「訪

問したり、電話をかけて様子を見る」が最も多く4割弱を占め、次いで②「普段どおり挨拶や声をかける」であった。②の態度は見守りを必要とする事例に温かい関心を寄せつつも、「監視」のイメージを抱かせないための配慮では事例を特別視しないで普段どおりの付き合いを継続することが必要なのではないかと考える。

詳細編の項目数を厳選することを考えたときには、まず今回の結果でチェックがつきやすかった項目を優先して挙げるのが得策であろう。詳細編6項目を選択するとした場合には、①転倒や事故などにあつた ②買い物ができない ③家族との接触が少ない ④家事ができていない ⑤必要なサービスを中断・利用していない ⑥眠れない、不安や心配ごとがあるの以上6項目があげられる。また、詳細編（認知症を疑う）項目については、①同じことを何度も言ったり、聞いたりする、話したばかりの内容を忘れる ②鍵などの大事なものの置き忘れ、しまいやすれが目立つ ③最近の出来事が思い出せない ④服装や髪の手入れにかまわなくなった ⑤日時をよく間違ふ、約束を全く忘れてゐる、ゴミの日をよく間違ふ ⑥薬の飲み忘れ、飲み過ぎが目立つ、以上6項目である。これらの項目を優先して選択し、「その他気になること」などの自由回答欄を設けることで十分ではないかと考える。

さらに、チェックシートの利用から見えてきたことは、見守りで大切なポイントは ①「何となくいつもと違ふ、何か変？」と気づく力と「少しの世話やき心」が必要である、②見守りには対象者との関係性の取り方と、聞き方の多少のコツを必要とするが、決してそれは難しいことではない。③自分にできることを無理のない範囲で行い、一人で頑張りすぎない。④屋外から見てわかることと、家の中まで入らなければわからない項目があり、その区別を知っておくこと。⑤見守りは決して「監視」ではないことを意識する。そのためには「自分がその立場であつたら」と我が身や肉親に重ねて考えるのも一案である。⑥プライバシーの尊重は大切であるが、見守りには人の命がかかっている可能性への気づきも大切。⑦専門的なことは専門職・行政等に任せる。⑧常識の範囲で対応可能な範囲と住民が行ふことの限界もあることを知る。⑨チェックシートは見守りの「きっかけづくり」に有効である。⑩見守りで最も大切にしなければならないことは、人にはそれぞれその人の生き方・価値観があり、それを認めながら暮らし続けられるように共に考える姿勢を持つことである。

### 3. 本年度の結論

堺市西区地域包括支援センターの管轄地域の見守り組織メンバーの住民と保健医療福祉職を対象に、見守りのスキルアップを図る、ネットワーク構築の方法論を学ぶ、ネットワーク構築に向けての模擬活動を行う、見守りシートを試行してその課題を明らかにすることを目的に研修を行った。その結果、見守りの必要性に対する理解がさらに深まり、具体的な見守り活動をイメージすることが可能となった。 今後は事例の緊急性の判断に向けての専門職と住民との連携や、チェック項目の厳選、さらにこれまでの研修活動を踏まえて地域特性を考慮した見守りネットワークの構築が課題である。

# 厚生労働科学研究費補助金

## 政策科学総合研究事業

### 高齢者等のセルフ・ネグレクト（自己放任）を防ぐ地域見守り組織の あり方と見守り基準に関する研究 〈大阪府堺市南区地域包括支援センター〉

—平成 21 年度継続調査(2 年目)報告—

#### 目 次

研究組織	1
第 1 章 調査地区の概要	2
第 2 章 本研究における本年度の研修	5
1. 平成 20 年度の課題	
2. 地域見守り組織における本年度の取り組み	
3. 本研究における本年度の研修・調査	
1) 南区パラバルーン会議（高齢部会パート 2）調査	
2) 孤立死した者との関わり体験のインタビュー調査	
3) 要支援者のこころの健康状態調査	
4) 堺市南区における孤立死の状況集計	
第 3 章 見守りチェックシートの調査	34
第 4 章 まとめ	42

平成 21 年度 分担研究報告書《NO 4》

分担研究者 川 井 太 加 子

平成 22 (2010) 年 3 月

## 研究組織

〈本報告書作成者〉

分担研究者：川井太加子（桃山学院大学社会福祉学部社会福祉学科 准教授）

山本美輪（明治国際医療大学看護学部看護学科 講師）

前原なおみ（甲南女子大学看護リハビリテーション学部 助教）

研究協力者：小尾智恵子（堺市南区役所地域福祉課 課長）

下熊京子（堺市南区地域包括支援センター 所長）

山崎智子（堺市南区地域包括支援センター 社会福祉士）

淡路深雪（堺市南区地域包括支援センター 社会福祉士）

## 研究組織構成メンバー

研究代表者：津村智恵子（甲南女子大学看護リハビリテーション学部 学部長）
河野あゆみ（大阪市立大学大学院看護学研究科 教授）
臼井キミカ（大阪市立大学大学院看護学研究科 教授）
和泉 京子（大阪府立大学看護学部 准教授）
大井 美紀（甲南女子大学看護リハビリテーション学部 准教授）
栞田 聖子（甲南女子大学看護リハビリテーション学部 助教）
鍛冶 葉子（甲南女子大学看護リハビリテーション学部 助教）
前原なおみ（甲南女子大学看護リハビリテーション学部 助教）
上村 聡子（甲南女子大学看護リハビリテーション学部 助教）
金谷 志子（大阪市立大学大学院看護学研究科 講師）
川井太加子（桃山学院大学社会福祉学部社会福祉学科 准教授）
山本 美輪（明治国際医療大学看護学部看護学科 講師）

## 第 1 章

### 1. 調査地区の概要

#### 1) 調査地区の状況

市町村名	大阪府堺市南区
地域概要	泉北ニュータウンを中心とした市街地とその周辺に集落地などがある。ニュータウンとしては全国最大であり、入居 40 年を経過している。現在は高齢化が進み、高齢化率が 23%を超える住区が多くなっている。また、核家族化による人口流出が進み、一人暮らし高齢者世帯の増加に伴い、見守り活動などの推進が求められている。
人口 (H22.1 月)	158,700 人      65 歳以上人口 35,659 人      高齢化率 22.5%
包括支援センター数	7 か所
包括支援センターの 専門職	常勤職員 15 名 (予防担当 (10) 社会福祉士 (2) 主任ケアマネージャー (2) 所長 (1)) 非常勤 2 名 (予防担当) 派遣職員 3 名 (事務職員)      計 20 名
見守り組織の名称、 数、参加人数	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地域のつながりハート事業」(小地域ネットワーク活動推進事業)。</li> <li>20 校区の見守りネットワーク地域ケア推進チームメンバー約 300 人 (民生委員や校区福祉委員が中心になり活動)</li> </ul>
地域包括支援 センターの見守り 支援関連活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>「お元気ですか」訪問 1 回/月</li> <li>いきいきサロン 2 回/月</li> <li>独居、昼間独居高齢者配食サービス、誕生会 1 回/月</li> <li>グループホーム職員研修 1 回/年</li> <li>介護家族等研修 2 回/年</li> <li>孤立死調査・分析: 26 件</li> <li>ボランティアビューロ 1 回/月</li> </ul> <p style="text-align: right;">※詳細は第 2 章</p>
見守り活動の 組織形態	図 1 に示す
見守り事務局、規約	事務局: 地域包括支援センター 規約: なし
見守り基準	民生委員用見守りチェック表あり

- 堺市は各区の地域包括支援センターが中心になり、住民主体の地域見守りネットワーク活動推進委員による活動システム構築に向け奮闘している。
- 大阪市は各区の社会福祉協議会では地域生活支援ワーカーが見守り、訪問活動を支援している。地域包括支援センターは区内の総合相談所と連携し、総合相談所の下に住民主体の地域見守りネットワーク活動推進委員との協力による見守り活動システムの構築と充実に向け支援している。

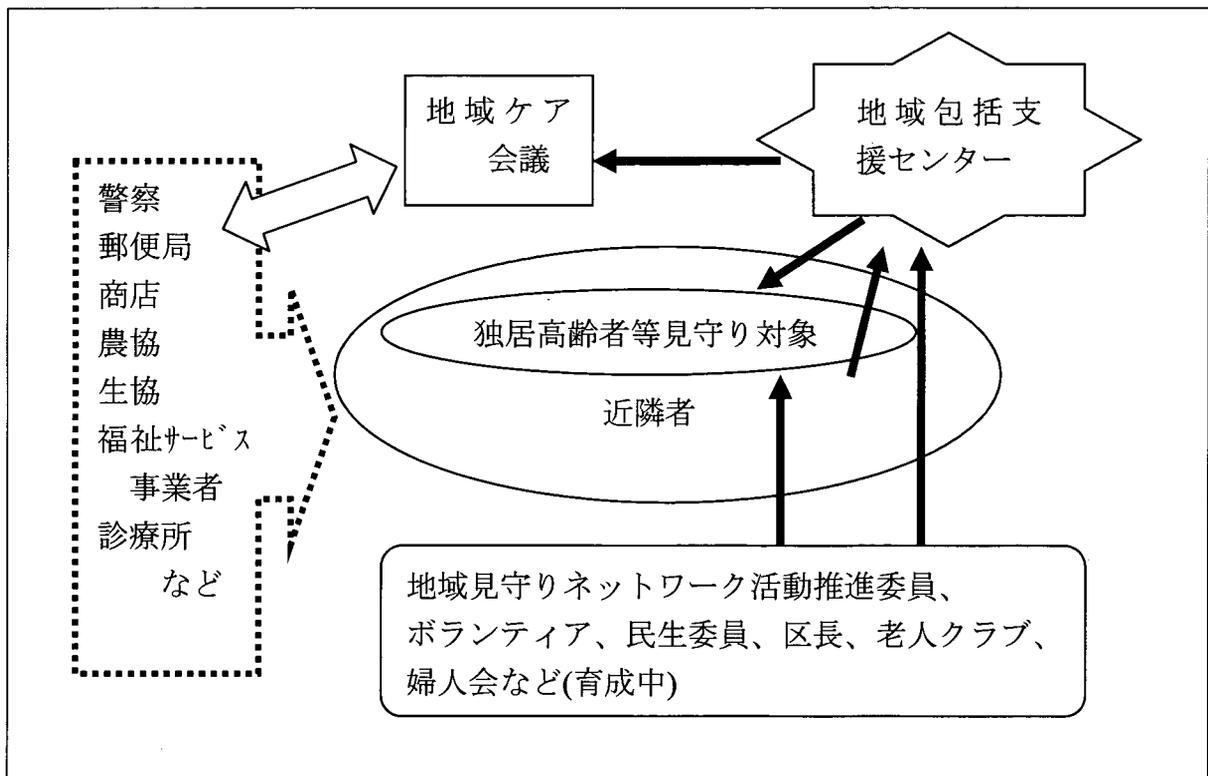


図 1.見守り活動の組織形態

## 2)調査地区の位置

堺市南区は、泉北ニュータウンは泉ヶ丘地区、榎・美木多地区、光明池地区の3つの丘陵部からなり、各地区は日常の生活エリアがある小学校区から構成されています。(20 章学校区からなり、今回の調査は、その中の6個校区でお願いしました)。

泉ヶ丘地区は、宮山台、竹城台、三原台、若松第、茶山台、高倉台、晴美台、榎塚台など、最も古くから開発された地区で、面積、人口が他の地区より大きく、商業・業務地として泉北ニュータウンの中心的地区に位置し、付近には私立の高校や大学があります。

桃山台、原山台、庭代台、御池台が位置している梅地区は、区役所、警察署、文化会館や敷物団地や郊外型商業施設などを擁しています。

また、赤坂台、新檜尾台、鴨谷台、城山台などが位置している光明池地区は福祉施設が集まった障害者福祉エリアのほか、体育館、大阪府立母子医療センター、運転免許試験場などがあり光明池駅前には商業施設も集積しています。

## 3)交通機関

泉北ニュータウンの中央部には泉北高速鉄道が横断しており、「中百舌鳥駅」から「和泉中央駅」までの143キロメートルを約16分で結んでいます。

バス路線は、鉄道各駅を起終点として各住区内を運行するように整備されています。また、65歳以上の多い区域は、路線が張り巡らされていて運行本数も多く、バス停も多く設置されています。幹線道路は、泉北1号線、泉北2号線がニュータウンを横断・縦断して市の中心部と直結しており、堺泉北環状線がニュータウンを取り囲むように走っています。

#### 4) 地域包括支援センターの活動概況

地域包括支援センターが総合相談として高齢者の保健・医療・福祉に関わる生活上のニーズや不安・心配事を受け付け、必要に応じて訪問による相談や情報提供、保健福祉サービスの調整を行っている。その件数を表1に示した。

表1. 地域包括支援センターによる高齢者総合相談

相談件数	新規相談件数	H18年度	239
		H19年度	273
		H20年度	440
	再相談件数	H18年度	59
		H19年度	86
		H20年度	1589
	相談件数合計	H18年度	298
		H19年度	359
		H20年度	2026
H 20 年 度	相 談 目 的	介護保険に関する事	580
		介護予防・生活支援に関する事	379
		医療・保健に関する事	423
		介護者支援に関する事	298
		施設・入所に関する事	150
		障害に関する事	27
		経済面に関する事	198
		生きがいに関する事	84
		権利擁護に関する事	155
		成年後見制度に関する事	55
		虐待に関する事	151
		サービスの苦情に関する事	42
		ケアマネージャー支援	229
その他	208		

## 第2章. 地域見守り組織の本年度の活動状況

### 1. 平成20年度の課題

堺市南区における平成20年度の見守り活動では、民生委員や校区福祉委員を中心にボランティア等による定期的な見守りが実施されてきたが、人員が十分に確保できていないことなどから見守り活動には校区による差が見られた。また、すべての校区を対象とした見守り基準のアンケートでは、検討中と無回答が7割を占めており、見守り基準の作成と見守りチェックシートの活用が課題にあげられ、見守りチェックシートの活用法として「お元気ですか訪問活動」を機会とすることなどを提案し施行段階であった。

### 2. 地域見守り組織における本年度の取り組み

#### 1) 地域ケア会議等の開催状況(表2)

表2. 地域ケア会議等の開催状況

校区	年 月 日		内 容
	平成 20年度	平成 21年度	
A 校区	定例開催	(年3回)	各関係機関から情報共有
B 校区	20.6.12		民生委員とケアマネの意見交換会
C 校区		21.6.15	車の運転を継続する認知症高齢者をどうサポートするか
D 校区		21.6.19	事例の振り返り、地域における関わりを考える
		21.10.7	事例を通じて、各機関の役割を考える
E 校区		21.4.16	地域懇談会
		21.6.21	事例を通じて、関係機関交流と見守りについて考える
F 校区		21.7.3	介護殺人DVD視聴し、地域の見守りについて深める
		21.10.19	平成20年度実施アンケート報告と情報共有
G 校区		月1回民 生委員会後	事例の情報共有 活動の振り返り
		21.9.3	地域ケア会議について考える(準備会)
H 校区		21.11.15	平成20年度実施アンケート報告と情報共有
		22.3.18	地域の民生委員、ケアマネージャーとの交流会
I 校区		21.11.9	20年度セルフ・ネグレクトにおけるアンケート報告 地区情報共有
		22.3.18	各組織やグループでの取り組み状況の共有
J 校区		21.11.26	各相談機関の役割について
K 校区			来年度(4.24) 懇談会予定

2) 地域見守り組織育成に向けた取り組み(研修会、事例検討会など) 状況

(1) 講演会 泉北ニュータウンにおける孤独死対策について

1 部: 泉北ニュータウンの孤立死事情～その実態と予防～

講師: 中部学院大学講師 新井康友先生

日時: 平成 21 年 11 月 16 日 午後

対 象: 南区の地域支援関係者・機関、関心のある市民

参加者: 45 機関 105 名

2 部: 遺品整理会社から見る孤立死の現状

講師: 遺品整理会社キーパーズ社長 吉田太一先生

日時: 平成 21 年 12 月 2 日 午後

対象: 南区の地域支援関係者・機関、関心のある市民

参加者: 50 機関 130 名

→1 部・2 部から民生委員の自主的な活動に波及

(講座を引き継ぐ形で地域の関係者が実施: 3 部とした)

3 部: ①高齢化社会を迎え地域社会の役割について(民生委員主催)

講師: 中部学院大学講師 新井康友先生

日時: 平成 22 年 3 月 13 日 午前

参加者: 約 15 名(L 校区民生委員、自治会関連)

②増える孤独死 防げ孤立死

講師: 中部学院大学講師 新井康友先生

日時: 平成 22 年 3 月 13 日 午後

参加者: 約 60 名(団体会員、自治会関連、一般市民、関係機関等)

方法: 講座を通じて実際にこれからどのようにアクションを起こせば良いか、グループワーク等を通じて考える。

③地域での高齢者の孤立死をなくす取り組みと民生委員の関わりについて(民生生活部会主催)

包括からの孤立死関連の情報提供

講師: 桃山学院大学 川井太加子准教授 地域包括支援センター

日時: 平成 22 年 3 月 18 日 午後

参加者: 約 50 名

(2) 講演会: 南区保健福祉ボランティア市民講座

認知症を学び、地域で支えるための知恵袋

日 時: 平成 22 年 2 月 23 日 午後

対 象: 関係機関・団体の方、認知症に関心のある市民

ボランティア連絡会のボランティア講座に入れ込む

内 容: 認知症という病気を理解しよう

講 師： 浅香山病院認知症医療疾患センター 釜江和恵医長  
認知症支援と同サポーターについて(グループホーム職員の寸劇を含む)  
堺市健康部健康増進課 作業療法士 戸松好恵氏  
参加者： 57 機関 215 名 オレンジリング配布 215 個

(3) 認知症サポーター養成講座(消防署職員向け)

日 時：平成 21 年 11 月～12 月 4 回実施  
講 師： 行政、在宅介護支援センター、地域包括支援センター  
参加者：消防署全職員 120 名 オレンジリング配布 120 個

(4) 物忘れ対策基礎講座(一般向け)

～認知症をよく知って誰もが安心して暮らせるまちに～  
日 時： 6 月 22 日、 6 月 29 日、 7 月 6 日  
講 師： 行政、在宅介護支援センター、地域包括支援センター  
参加者： 52 名(平均) オレンジリング配布 50 個

(5) 認知症介護者教室(介護者向け)

～がんばる前に知っておきたいこと～  
日 時： 11 月 20 日、 11 月 27 日、 12 月 4 日  
講 師： 行政、在宅介護支援センター、当事者家族、グループホーム職員  
参加者： 47 名(平均)

(6) 認知症介護者教室終了後の家族交流会

日 時：12 月 18 日  
主催 在宅介護支援センター 協力：地域包括支援センター・地域福祉課  
参加者：7 機関 16 名

(7) 認知症介護者家族の会(きづきの会なごみ)

日時：毎月定例  
参加者：毎月平均 15 名程度  
\*在宅介護支援センター、地域包括支援センター(後方支援)

(8) ニコニコピック 風船バレーボール大会

日時：平成 22 年 3 月 14 日 午後  
主催：南区 8 施設認知症対応型グループホーム 協力：地域包括支援センター  
参加者：約 150 名(グループホーム入居者、家族、施設職員、関係機関等)

3) 見守り啓発ちらし等の作成

在宅介護支援センター・民生委員・ケアマネ連絡会に協力を依頼し、各種類とも発行にあたり1～2回の検討会を実施し、見守り啓発ちらし等を作成した。

【啓発ちらし内容】

- ① リーフレット 孤立させない地域をめざして 14000部 完成:平成21年10月  
～個人が孤立しない、させないために住民の意識を高める～

リーフレットは、以下の会議等で趣旨説明を実施した。

- ・ 民生委員長会議、校区福祉委員会活動実践交流会、民生委員生活部会、ケアマネ連絡会、ヘルパー連絡会地域ケア会議、各種講演会、郵便局等(500部)
- ・ 消防署職員による75歳以上の高齢者のみの世帯と緊急通報装置設置世帯の防火訪問事業に配布の協力を依頼 (約2000部)
- ・ 南区各種新聞販売全店舗の事業主に見守りに対するききとりと配達員への周知を依頼 事業主12店舗(485部)

だれもが安心して暮らせる地域づくりは「地域の力」で!! **南区版**

# 孤立をさせない 地域をめざして

一人暮らしで、誰にもみとられることなく、ひっそりと家の中で亡くなり、時には何週間も過ぎてから発見される孤立死が改めて問題となっています。  
このパンフレットは、孤立死を防ぐために役立つサインと地域で見守るポイントを紹介していますので、ぜひご利用ください。

**孤立死は、2週に1人!  
わたしたちの住む  
地域にも、  
おこっています。**

**南区でも、高齢化率の増加が予想されます。**

**最北ニュータウンで発生した孤立死の件数**

年	男性	女性
2003	7	10
2004	10	14
2005	13	17
2006	12	15
2007	11	14

**南区の年齢別人口構成**

年齢	人口
0	1,100
1	1,100
2	1,100
3	1,100
4	1,100
5	1,100
6	1,100
7	1,100
8	1,100
9	1,100
10	1,100
11	1,100
12	1,100
13	1,100
14	1,100
15	1,100
16	1,100
17	1,100
18	1,100
19	1,100
20	1,100
21	1,100
22	1,100
23	1,100
24	1,100
25	1,100
26	1,100
27	1,100
28	1,100
29	1,100
30	1,100
31	1,100
32	1,100
33	1,100
34	1,100
35	1,100
36	1,100
37	1,100
38	1,100
39	1,100
40	1,100
41	1,100
42	1,100
43	1,100
44	1,100
45	1,100
46	1,100
47	1,100
48	1,100
49	1,100
50	1,100
51	1,100
52	1,100
53	1,100
54	1,100
55	1,100
56	1,100
57	1,100
58	1,100
59	1,100
60	1,100
61	1,100
62	1,100
63	1,100
64	1,100
65	1,100
66	1,100
67	1,100
68	1,100
69	1,100
70	1,100
71	1,100
72	1,100
73	1,100
74	1,100
75	1,100
76	1,100
77	1,100
78	1,100
79	1,100
80	1,100
81	1,100
82	1,100
83	1,100
84	1,100
85	1,100
86	1,100
87	1,100
88	1,100
89	1,100
90	1,100
91	1,100
92	1,100
93	1,100
94	1,100
95	1,100
96	1,100
97	1,100
98	1,100
99	1,100
100	1,100

65歳～74歳が南区の人口の約3割を占めています。

堺市 SARAI CITY

一人ひとりが、人に関心を持ち「あれっ?おかしいなあ」と思ふことが大事です。

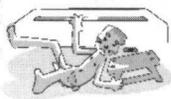
## 孤立死を防ぐ「あれっ?おかしいなあ」 もしかしてサイン

こんなサインあなたは、見過ごしていませんか?

- |  |   |  |
|--|---|--|
| <b>最近姿を見なくなった</b><br>・いつもなら出勤に来る時間帯なのに?      | <b>収集日にごみが出されていない</b><br>・庭の中からごみの焼却した二オイがする。 | <b>洗濯物が何日も干したまま</b><br>・筒干し機が壊れている、洗濯物を干していません。        |
| <b>郵便物や新聞がたまっていく</b><br>・ポストから郵便物や新聞がはみ出ている。 | <b>窓がずっと開まっている</b><br>・空調を閉め忘れている可能性がある。      | <b>暗くなくても電気がつかない</b><br>・クーラーの室外機が動いていないのに暗くても電気がつかない。 |

もしかして...ケガや病気で動けないのでは?

たまたま留守にしていただけだったり、近寄り過ぎて旅行に行っていたなどほんとの場合は、何事もなく取り返し苦労に終わることでしょう。しかし、ご近所の方の「余計なお世話」のおかげで一生を終わらせたというケースもあります。



高齢者の見守りに力を貸してください。

それは、声かけとさりげない見守りです。  
 「見守り」が必要な人って・・・  
 ○一人暮らしの高齢者  
 ○高齢のご夫婦のみで暮らしをされる方  
 ○ひとり暮らしではないが、同居のご家族が病気などであるなど



高齢者を地域でみんなで見守りましょう!

日々の生活をさびげなく見守る!  
仕事ができること!

次のようなことがないか、気配りをお願いします。  
 ・いつも来る方がこない。  
 ・玄関が開いているのに返答がない。  
 ・新聞や郵便物がたまっている。など  
 ご協力お願いします!

つながりがあれば、いざという時安心!  
みんなができること!  
日々の「あいさつ」で声をおかけしましょう!

連絡と合うことがないが気配りせよ!  
近所所だからできること!  
近所所になし、わからない「もしかしてサイン」もたくさんあります。  
 ・戸戸を開け替える音が聞こえない。  
 ・テレビが付けっぱなし。  
 ・臭いがある。  
 ・話し声がしない。  
 ・物音がまったく聞こえない。など

予防対策 周りの人に気づいてもらうために

ご自身ができることを!

「一人暮らしだけど、自治会活動や、ボランティア活動に積極的に参加してるから、孤立はしていない。」

でも、それだけで孤立死の予防が万全でしょうか。  
 孤立死は誰の中での突然の事件やケガが原因で起ります。そんな、いち早く発見して気づいてもらえるような仲間づくりが大切です。

ひとり暮らしで「もしも」の時に不安がある場合は・・・  
 ・「もしも」の時にしてほしいこと・連絡してほしい連絡先」などを集めたものを家族人と交際したり、近所の人と共有する。  
 ・家族や友人などの連絡やメールを「1日1回」を目安にする。



「もしかしてサイン」に気づいたら地域の民生委員や関係機関にお知らせください。

## つながらなければ、はじまらない! 復活! 向こう3軒両隣

「いつもと様子が違う」  
「心配なことが起きているようだ」  
 といったことに気づいたり何か心配事がある場合には  
 地域の民生委員児童委員や関係機関にお知らせください。



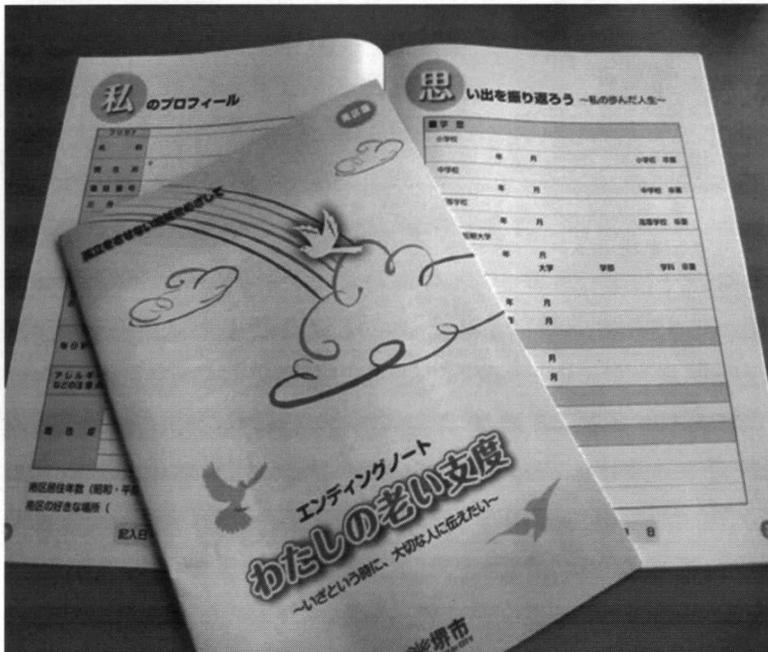
### 〈関係機関連絡先〉

宮城県		
名称	所在地(地区)	連絡先
在宅介護支援センター	いずみの郷	富山台、竹城台、竹城台東、豊田地区 ☎072 (290) 2277 竹城台1-3-2
	故郷の家	福島中央、赤坂台、新橋尾台 ☎072 (271) 0881 番地3000-12
	泉北園百寿荘	三原台、茶山台、若林台 ☎072 (296) 3535 茶山台3-23-2
	槻塚荘	高倉台、高倉台西、晴美台、槻塚台 ☎072 (291) 0920 遊園川1099-2
	年輪	御池台、鹿代台、横山台、上神台(豊田地区除く) ☎072 (293) 4800 御池台5-2-2
	美樹の園	横山台、美木多、藤山台、藤山台東 ☎072 (296) 1222 美木多上1277-1
南地域包括支援センター		☎072 (290) 1866 横山台1-1-1 南区役所内
南区役所 地域福祉課		☎072 (290) 1812 横山台1-1-1 南区役所内

発行：南地域包括支援センター/南区役所 地域福祉課  
 協力：西区高層ビル管理  
 新野社会福祉協議会 南区高層ビル 南区在宅介護支援センター  
 西宮民生委員児童委員(高齢部会)・西宮アマチュア連合会

2009.10.09版

- ② 古い仕度－エンディングノート作成 3000部、平成22年3月完成。(4月広報等で周知予定)。



エンディングノートは、いざというときに備えて、自分自身のことや介護・医療についての希望を記載しておくものです。このノートを作成しておくことで、自分の死後や突然意識不明状態になったときなどに役立ちます。

- ③ 高齢者関係機関マップの作成 3000部(平成22年3月完成)

- ④ 転入者チラシの作成

目的: 高齢転入者が不安なく地域で生活できるように、校区ボランティアビューロー等を紹介し、スムーズに地域の活動に参加できるようにつなげる

方法: アルミュール会議(構成は、保健福祉総合センター長、地域福祉課長、生活援護課長、保険センター長・次長、区社協、包括支援センターほか)において、各校区を分担してチラシの趣旨説明を行い作成に協力を求めた。

結果: 11校区でチラシを完成。校区によっては既存の校区新聞等に対応する校区もある。区社協・3階の包括及び地域福祉課相談窓口付近に「校区案内スタンド」を設置した。



#### 4) 孤立死における関わりの振り返り会議

日 時:平成 22 年 3 月 12 日 M校区 2 ケース

場 所:M校区地域会館

講 師:中部学院大学 新井康友先生

参加者:民生委員、在宅介護支援センター、ケアマネージャー、地域包括支援センター約 15 名

目 的:2 ケースについて関わりの振り返りを行い、今後の発生した際の連絡体制づくりや見守りの工夫を考える

〈ケース1〉「2, 3 日前より姿をみない。玄関扉にチラシたまっている」と民生委員に連絡が入り発見されたケース

〈ケース2〉訪問看護訪問時に応答がなく、ケアマネージャーに連絡が入り発見されたケース

#### 5) 孤立死等の可能性があるケースの対応について（南区版フロー図の作成）

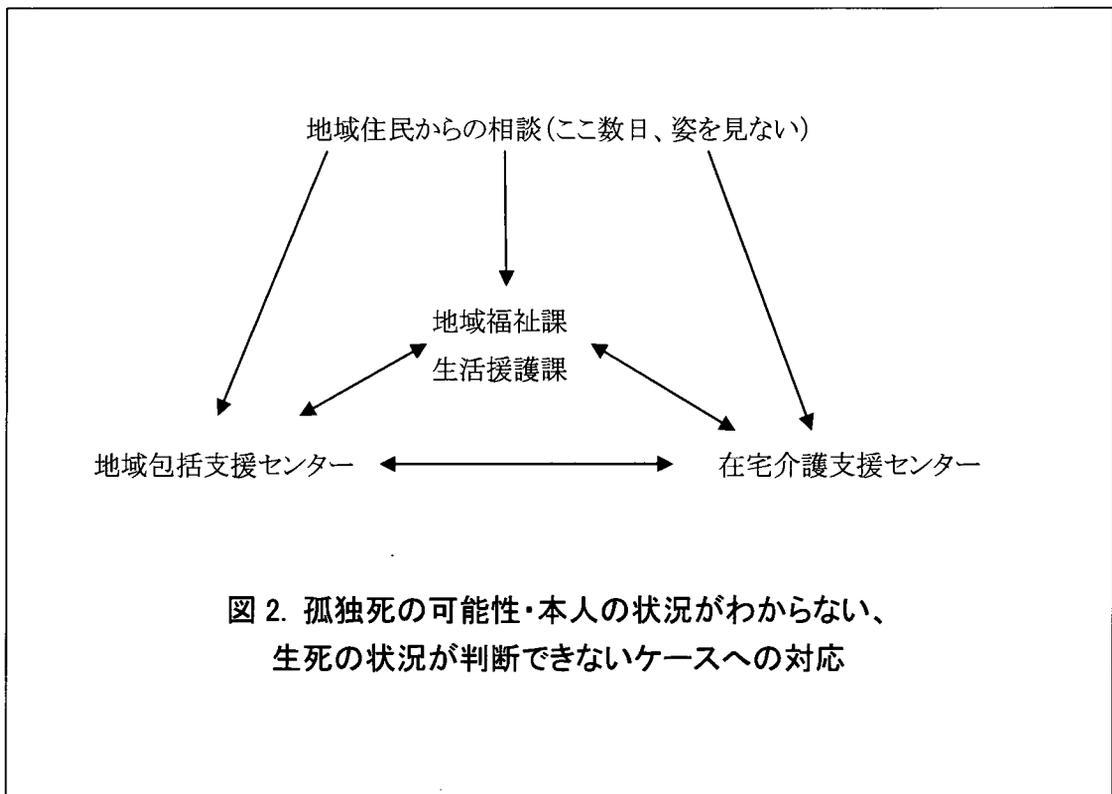
目 的:堺市南区の見守り活動において、孤独死の可能性がある場合や、本人の状況がわからない、生死の状況が判断できない等のケース(不足の事態)の対応方法を明らかにする。

方 法:日頃の見守り活動で、「呼んでも応答がない、ちょっと気になる」など連絡があったときの、日ごろの動き(活動状況)を話し合い書き出した。

結 果:

##### (1) 孤独死の可能性のある場合の活動状況

日ごろの動き(活動状況)から、明らかになったケースへの対応を図 2 に示した。



## (2) 状況の理由

孤独死の可能性や本人の状況がわからない、生死の状況が判断できない等の理由について話しあった。その結果以下の発言が得られた。

- ・ 親類の家に行った。
- ・ 入院した。
- ・ 入所した。
- ・ 家の中で動けなくなっている。
- ・ 家の中で亡くなっている。
- ・ 元気だが、閉じこもっていた。

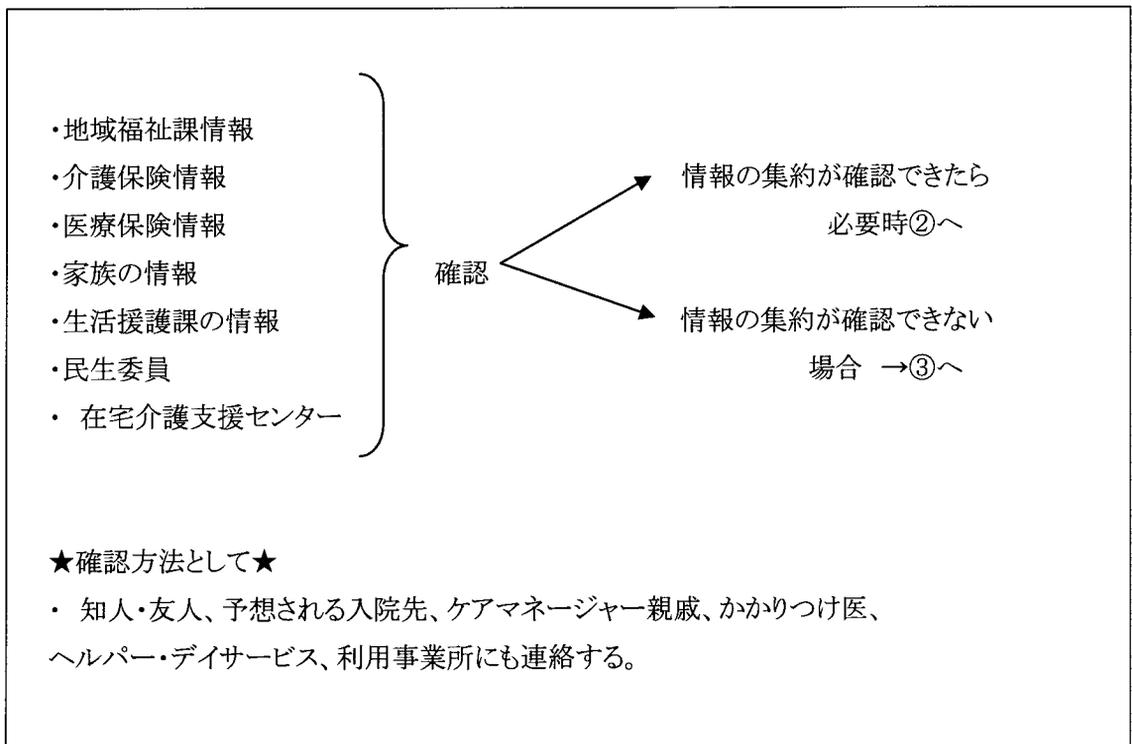
## 3) 考察

その状況が起きている理由から、不足の事態が起きた場合(孤独死の可能性や生死の状況がはんだんできない等の状況)の対応方法として

- ① 情報を集約する
- ② 訪問により所在の確認や不在の経緯を確認する
- ③ 状況がつかめない場合は連絡先・方法を検討する
- ④ 最終報告の責任者を決め役割を分担する

ことを課題に上げ、その方法を検討し具体化した。

### ①情報の集約



## ②訪問する

複数での訪問(地域福祉課・生活援護課・地域包括・在宅介護支援センター等)

### 1) 状況確認

① 近隣の住民・民生委員からの情報収集

② 家の外から確認

本人の応答・家の様子・電気・ガス・水道・郵便物・電話

異臭の有無・窓の状況(開閉の有無)・カーテンの状況(開閉の有無)

③ いつ頃から様子がわからないか?

日常生活の様子。(家事は?人の出入りは?)

<情報収集の再確認>

・ 家族関係

・ 受診状況

・ 住宅の情報(一軒家・文化住宅・市営・大家はいるか・管理人)

1)で所在確認ができ、医療が必要と判断した場合

→ 救急車を呼ぶ(できれば本人に了解)

1)で所在確認ができ、医療は不要と判断した場合 → 終了

1)で所在確認ができない場合 → ③へ

## ③所在確認ができない場合

### 1) 家主に連絡

・ 保証人がわかれば相談する

・ 保証人と連絡がつかない場合家主と相談→ 合鍵あれば立会いの上家に入る

2) 判断がつかない場合 → 電話連絡等で対策会議をもち決定する

※レスキューの判断はその人を一番よく知っている方の情報をもとに、対策会議で判断する

※鍵の費用についての対応も視野に入れておく

## ④最終報告

最終報告責任者をおき役割分担する。

さらに、緊急時の連絡体制として、連絡先一覧の必要性があげられ、作成された。

## 【連絡先一覧】

### ☆住宅☆

堺市営住宅 住宅管理課 TEL:228-8225

鍵は預かっていない。(管理組合があるところでも)

緊急連絡先は聞いているので、連絡先を教えてください。

UR都市機構 泉北住宅管理センター TEL:297-5444

鍵は預かっていない。担当者)城戸氏(他にもありだが)

連絡先等把握している場合もあるので、相談の電話をいれてほしい。

大阪府営住宅 堺管理センター TEL:233-3851 担当 岡田氏

鍵は預かっていない。管理センターより保証人に連絡してくれる。

身内がない場合は管理センターより警察・自治会に連絡し潜入してくれる。

☆鍵☆

名 前	TEL	備 考
カギの救急車 (なかもず)	240-3815 257-9948	普通のタイプ一個 8400 円から。スタッフが いればすぐに対応可。 必ず警察立会いの下で行なう。
生活救急車 (北区中百舌鳥)	0120-000-356	
キーレスキューサービス (堺東駅前)	0120-924-982	
ロックマン サービス	0120-516-690	

☆堺市☆

地域福祉課 TEL:290-1812 南保健センター TEL:293-1222

生活援護課 TEL:290-1810

☆警察☆

堺南警察 TEL:291-1234

☆消防署☆

堺市高石市消防組合 消防本部 TEL:072-228-0119

南消防署 TEL:299-0119 堺市内で通報・搬送ケースは全て集約されている

☆電話☆

NTT 料金関する問い合わせ 大阪南部 TEL:0120-732-042

NTT お客様相談センター TEL:0120-019-000

☆水道☆

上下水道局南部営業課 TEL:297-1132

北部サービスセンター TEL:273-5231

☆電気☆

関西電力 堺営業所 TEL:238-8681

☆ガス☆

大阪ガス 南部事業本部お客様専用 TEL:0120-394-817

担当者記入欄

民生委員( )	在介( )
ケアマネ( )	医院( )
ヘルパー( )	家族・親戚・友人( )

南保健福祉総合センター  
南地域包括支援センター

まとめ

見守り活動中の不測の事態は、見守り活動意欲の低下や活動継続の困難さに直結する問題となりやすい。今回、堺市南区の見守り活動において、日ごろ活動している者が話し合ってフロー図を作成したことで、孤独死の可能性や本人の状況がわからない、生死の状況が判断できない等のケースの対応方法が明らかとなった。フロー図を活用していくことは、見守り活動を実施する者の不安や負担の軽減につながる。安心して地域で生活するために、安心して見守り活動に参加できる体制作りのひとつとして見守り活動の活性化につながった。

### 3. 本研究における本年度の研修・調査

#### 1). 南区パラバルーン会議(高齢部会パート2)調査

##### 1) 研究目的・方法

- (1) 調査の目的: 事例のグループワークをとおして事例が起きた原因の理解と今後の孤独死防止の取り組みの学びを明らかにし、地域見守り活動に活用する。
- (2) 対象者: 校区で見守り活動を実施している人
- (3) 期 間: 平成 21 年 7 月 23 日
- (4) 方 法: パラバルーン会議のグループワークの発言を録音することに同意を得られた者には、ICレコーダーで録音したもものから逐語録を作成した。録音に同意を得られなかった者、もしくは録音した音声聞き取りにくい場合には、議事録をもとに発言内容をまとめた。得られたデータは、テキストマイニングツールであるテキストデータマイニングソフト(富士通)を用いて分析を行った。

※パラバルーン会議の開催目的・方法などは以下のとおりである。

目 的: 住み慣れたところで、みんなと一緒に差さえあって暮らし続けるための支援を考えることで、見守り活動の視点を高める。

内 容: 認知症の人が安心して暮らせるまちづくり

～介護殺人の事例を題材に認知症高齢者の見守りについて考える～

講 師: 川井太加子

対 象: 参加状況: 南区パラバルーン会議(高齢部会パート2)は 52 機関(在宅介護支援センター、民生委員、ケアマネ連絡会、認知症対応型グループホーム、医師、警察署、消防署等) 92 名参加。

方 法: DVD『介護殺人: 防げなかった親子心中』を鑑賞後、グループワークを行い、以下 2 点についてグループホーム話し合った内容を発表し、相互の意見交換を行った。

- a. K 被告(DVD での提示事例)が周囲に助けを求められなかったのはなぜか
- b. K 被告(同上)が、自分たちの隣人であったらどう対応できるか

※富士通トレンドサーチについて

テキストデータマイニングとは、電子化された手紙(Eメール等)、および自由記載等の構造化されていない文章、つまりテキストデータをマイニング(採掘)することで、膨大な自然言語データの中に潜む単語の出現傾向、語と語の共起関係、または単語間の依存関係などを多角的視点から分析し、テキストデータの中に埋もれている傾向やモデル、情報を得るアプローチ法である。そして、富士通トレンドサーチは、単語間の距離が近いほど関連が強いことを示している。しかし、日本語は文法上、文章の最後に述語が位置されるため、テキストデータの文脈を考慮し、名詞と名詞から派生する述語、そして同様に名詞より派生する「ある」「いる」等の連体詞を分析対象とした。また同義語は統一を行い、コンセプトマッピング後、関連線が無い用語や距離が遠く、解釈が困難な用語は削除した。